

平成27年12月25日

豊田市議会議長 神谷和利 様

豊田スタジアムを生かした

まちづくり特別委員会

委員長 都築繁雄 ⑩



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

- 1 派遣期間 平成27年11月17日（火）～19日（木）
- 2 派遣先 17日（火）…奈良県奈良市
及び内容 /おもてなしのまちづくり条例及び
推進行動計画について
18日（水）…大分県大分市
/中心市街地整備事業について
19日（木）…熊本県熊本市
/観光振興に対する取組について
- 3 派遣委員 委員長 都築 繁雄 副委員長 桜井秀樹
委員 松井 正衛 岡田 耕一 三江 弘海
小島 政直 加藤 和男 板垣 清志
窪谷 文克 塩谷 雅樹 岩田 淳
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行 藤野晃浩、近藤乃介

視察報告書【1】

委員会名	豊田スタジアムを生かした まちづくり特別委員会	委員長	都 築 繁 雄
視察日時	平成27年11月17日(火) 午前10時30分～午前12時		
視 察 先	奈良県奈良市		
視察内容	おもてなしのまちづくり基本条例・推進行動計画について		
選定理由	当委員会の調査研究事項である「来訪者を迎えるためのおもてなし」について調査研究の参考とするため		
本市議会の 現状と課題	当委員会は、ラグビーワールドカップ2019の国内会場の一つである豊田スタジアムを生かし、本市として大会成功、広域スポーツ振興、地域活性化に寄与し、国際都市としての更なる飛躍、発展等を目指し、調査研究を行っている。		
視察概要	<p>①事業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ●おもてなしのまちづくり条例／平成21年4月施行 ●おもてなしのまちづくり推進行動計画／「おもてなしのまちづくり」を市や市民、企業・団体などが協力して取組むための行動計画。 ●もてなしのまちづくりを進めるため、広報及び啓発や活動の促進、学習の支援及び教育など、7つの分野について取り組んでいる。 ●現在、推進行動計画の最初の計画期間が過ぎ、見直し段階にある。今後はもてなす対象を明確化し、またもてなしに関わる各主体の役割関係をより明確にしていく。また、行動計画の実施主体として、関係団体により構成される「奈良市もてなしのまちづくり推進協議会」を中心に取組を進めていく。 		
評価と その理由	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の条例制定、計画策定から、中々取組みが進まない状況ではあったが、そういった中でも、新たに取組みを見直してやっという前向きなところは評価できる。 ・子どもたちへの世界遺産教育、芸術歴史文化の教育が成功していると感じた。 ・当初はあまり稼働していなかった計画だが、しっかり反省して、的を絞って取組んだ点は評価できる。 		
本市に反映 できること	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田市の今までの歴史・伝統から見て、他市に誇れるもの、他市から見て豊田市の財産は何か、というものを考えておく必要があると感じた。 ・ターゲットを絞るという視点から行くと、豊田市だけでなく、東海圏、愛知圏域といった近隣自治体との連携を図りながら、ターゲットを絞っていけるとよい。 ・奈良市では世界遺産などの文化を明確に打ち出しており、市の取組に活かしている。本市でも自分たちの強みを考え、おもてなしに取り組む方向性は豊田市にも反映できると思った。 		
その他 (意見・課題 など)	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の必要性は感じるが、市民をどのように巻き込むかを考える必要がある。 ・計画を策定するなら、全庁をあげてどう取り組むのかを考えなければならない。 ・おもてなしという視点から行くと、行政の担当部署についても考える必要がある。 ・奈良市のような世界的な観光都市ですら、こういった取組をしているので、豊田市としては2019年、それ以降に対しても、早く取り組んでいく必要がある。 		

視察報告書【2】

委員会名	豊田スタジアムを生かした まちづくり特別委員会	委員長	都 築 繁 雄
視察日時	平成27年11月18日(水) 午前10時00分～午前11時30分		
視 察 先	大分県大分市		
視察内容	中心市街地整備事業について		
選定理由	当委員会の調査研究事項である「国際都市 豊田市としての顔づくり」のため、駅周辺などの各施設等、駅周辺から豊田スタジアムへの動線に対する空間のあり方について調査研究の参考とするため		
本市議会の 現状と課題	当委員会は、ラグビーワールドカップ2019の国内会場の一つである豊田スタジアムを生かし、本市として大会成功、広域スポーツ振興、地域活性化に寄与し、国際都市としての更なる飛躍、発展等を目指し、調査研究を行っている。		
視察概要	<p>JR大分駅周辺の中心市街地は、鉄道により南北に分断され、都市規模に見合った市街地の形成が阻害されていた。また、車社会に伴う道路交通状況の悪化や、駐車場不足などにより将来展望が望めないことから、都市機能の郊外立地が進展し、県都としての魅力や活力低下が危惧されていた。</p> <p>こうした中、大分駅付近連続立体交差事業と駅南土地地区画整理事業並びに庄の原佐野線等関連街路整備の三位一体とする大分駅周辺総合整備事業により、県都大分の「都心づくり」、「顔づくり」がほぼ完成したので、取組状況を視察した。</p>		
評価と その理由	<p><大分駅付近連続立体交差事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体：大分県 ・事業期間：平成8年度～平成25年度 ・事業費：約600億円 ・進捗状況：100% <p><大分駅南土地地区画整理事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体：大分市 ・事業期間：平成8年度～平成28年度 ・事業費：約690億円 ・進捗状況：99% <p><関連街路事業></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 都市計画道路 庄の原佐野線 <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体：大分県 ・事業期間：平成6年度～平成20年度 ・施行区間：1.9km ・進捗状況：100% 2 国道10号古国府拡幅 <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体：国土交通省 ・事業期間：平成10年度～平成24年度 ・施行区間：0.6km ・進捗状況：100% <p>大分市は県都であるため、大分駅付近連続立体交差事業や関連街路整備を大分市が事業主体で実施している。また、JR九州も駅ビル整備など積極的に事業参加している。</p>		

<p>本市に反映 できること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この整備事業により、中心市街地には30代と40代の人口が増えており、それに連れて0～9歳の人口も増えている。豊田市では40代の人口が流出している状態なので、ぜひこういった整備事業による人口増加策は参考にすべき。 ・幅員100メートルのシンボルロードに対する取組みについて、防災に対応すると同時に、維持管理の点で、市民の皆さんに色々な形で関わってもらっている点はぜひ参考にしたい。 ・駅前の景観を第一に考えていて、ロータリーの整備と客待ちタクシーのシステム、郷土の偉人の像の整備、また雨除け・日除けシェルターも地元産木材を使った点は参考にすべき。 ・市民、行政というそれぞれの役割の中で、連携を図りながら、取り組むことは豊田市にも取り入れることができる。 ・豊田市では、今、都心環境計画の策定に取り組んでいるが、そのスピード感と、そこに市民の皆さんを巻き込んで、市民力を活かして、進めていくことが必要であると同時に、決断力が大事だと感じた。 ・イベント広場を市民に有料で貸し出し、活性化につなげている点は豊田市でも取り組むことができると思う。 ・ラグビーワールドカップという視点だと、駅から会場までバスしか移動手段がないという中で、豊田市でも課題を明確にして、しっかり動線をつくっていくべきだと感じた。
<p>その他 (意見・課題 など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大分市を見ると、都市の成り立ちが異なるが、豊田市も区画整理や、連続立体、再開発事業など、比較的取り組んできていると感じた ・この整備により、中心市街地に人口が集中したが、大分市全体の人口増にはつながらず、過疎になる地域が出てくることから、豊田市では他の地域のことも考えていかなければならない。 ・タクシーのショットガン方式についてはうまく取り入れていると思った。景観、利用者視点でみると、子の取組みはいいと思うが、豊田市で必要かどうかはしっかり検討する必要がある。 ・県都、JRがあるということを考えると、「車のまち豊田市」とは大きな違いだと感じる。

視察報告書【3】

委員会名	豊田スタジアムを生かした まちづくり特別委員会	委員長	都 築 繁 雄
視察日時	平成27年11月19日(木) 午前9時30分～午前11時00分		
視 察 先	熊本県熊本市		
視察内容	観光振興の取組みについて		
選定理由	当委員会の調査研究事項である「国際都市 豊田市としての顔づくり」「来訪者を迎えるおもてなし」のための調査研究の参考とするため		
本市議会の 現状と課題	当委員会は、ラグビーワールドカップ2019の国内会場の一つである豊田スタジアムを生かし、本市として大会成功、広域スポーツ振興、地域活性化に寄与し、国際都市としての更なる飛躍、発展等を目指し、調査研究を行っている。		
視察概要	<p>熊本市の観光入込客数は、平成3年をピークに減少傾向。熊本城築城400年祭や本丸御殿の落成により、平成20年には熊本城の入園者数が200万人を超え、また、経済成長が続く東アジアからの観光客が増加している。</p> <p>このような中、熊本市では、平成23年春の九州新幹線鹿児島ルートの特急開業を契機に、多くの観光客が訪れ魅力ある都市として成長していくための大変重要な時期にある。</p> <p>そこで今後は、「観光立市くまもと」の実現に向けて、新たな観光資源の掘り起こしなど、観光ニーズの多様化・個性化への対応を進めるとともに、積極的に内外に熊本市をPRし、さらなる本市の知名度向上に取り組むことにより、国際観光客の誘致や経済波及効果の高いMICEの振興を図る必要がある。</p> <p>熊本市観光振興計画 ＜基本方針及び基本施策＞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 観光客やコンベンションの誘致 <ol style="list-style-type: none"> ① 観光誘致活動の展開（関西以西、東アジアの誘客活動） ② コンベンション誘致（国際的なスポーツ大会） 2 観光客受入態勢の充実 <ol style="list-style-type: none"> ① 観光客受入態勢の整備（情報提供・おもてなし） ② 観光イベントの開催と新たな観光資源の掘り起こし 3 主要観光資源の魅力向上 <ol style="list-style-type: none"> ① 熊本城の利活用（中心市街地との回遊性の向上） ② 魅力ある動植物園づくり 		
評価と その理由	<ul style="list-style-type: none"> ・観光に対する戦略をしっかりとって、「選ばれる」ということを柱に取り組んでいる。 ・全国でも観光都市として有名だが、今あるものだけでなく、さらに新しい観光資源等を活用している。 ・観光、ラグビーなどに対する組織体制を見ても、市としての取組みの本気度が違うと感じた。 ・観光客誘致だけでなく、MICEについても取り組んでおり、それも別々に動いていたのを一緒にやれるように組織体制を変更し、強化した点などは、豊田市も見習うことができると感じた 		

<p>本市に反映 できること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本には熊本城という核になる観光資源を最大限利用し、インバウンドやMICEに今後力を入れていく点、またラグビーワールドカップ 2019に向けても、「おもてなし」を積極的に展開し、誘客に取り組んでいく点。 ・議会バスのラッピングなど、しっかり観光PRに努めている。 ・熊本市のようにターゲットを絞り込んで、それらにたいする取組みにこだわっていくとう点は参考にすべきだと感じた。 ・熊本市では、ワールドカップ・オリンピックに向けて、すでにオーストラリアに対してはPRを始めており、豊田市も海外に向けて、積極的に情報発信を行っていく必要がある。 ・行政と観光協会がしっかりかみ合わなければならないと感じたし、そういった組織が必要である。 ・国際スポーツイベントを実施し、それに対する取組をどのように生かすか。それに対してターゲットを決めて、戦略を練る点は見習うべきである。
<p>その他 (意見・課題 など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊については市内だけでなく、愛知圏域、東海圏といった広い視点で考えていく必要がある。 ・文化財などに対する視点も活用し、豊田市を様々な視点からPRすることも検討すべき。 ・とよたまちさとミライ塾を進化させ、誘客を目指せるのではないか。